

西来寺報

二〇一九年 春

第三十二号

ご本尊にお参りしましょう

年末年始、あるいは春秋のお彼岸、お盆に大勢の方がお参りにきますが、気になったことがあるので、お話しさせて頂きます。それは何人もの方がお寺の駐車場に車を止めて、お墓参りに行くのですが、お寺のご本堂に礼拝せずに直接ご自分のお墓に参ってしまいます。お墓参りも大切ですが、先ずご本尊に頭を下げて頂いてからお墓にお参りに行って頂きたいと思えます。当、西来寺では墓地に向かう前に本堂があります。本堂前を素通りせずに、ご本尊に合掌、あるいは頭を下げてお墓参りに行って下さい。お寺参りという言葉があるように、先ずはご本尊にお参りしましょう。

また各家庭においてはお内仏（お仏壇）「浄土真宗では各家庭の中にあります仏様、あるいはひとりひとりの心の中にましますご本尊と言う

ことからお内仏と申します。」その仏様に一日一回合掌することを心掛けて頂けたらと思つて言います。ご本尊とは尊いことがらを表します。私達に取つて大切なことは何でしょうか？ お金、健康、地位、名誉と色々考えられますが、賜りたいのちを悔い無きように生きて下さいと言われているのがご本尊というはたらきではないでしょうか。亡き人ご先祖がそのことを伝えて下さったのではないのでしょうか。まずはご本尊を礼拝するという習慣を心がけて頂きたいと思つています。

合掌



亀の池の桜 2018年3月28日撮影

平成31年（2019年）年回表

百	七十	五十	三十七	三十三	二十七	二十五	二十三	十七	十三	七	三	一
回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	回忌	周忌
大正九年没	昭和二十五年没	昭和四十五年没	昭和五十八年没	昭和六十二年没	平成五年没	平成七年没	平成九年没	平成十五年没	平成十九年没	平成二十五年没	平成二十九年没	平成三十年没
(一九二〇)	(一九五〇)	(一九七〇)	(一九八三)	(一九八七)	(一九九三)	(一九九五)	(一九九七)	(二〇〇三)	(二〇〇七)	(二〇一三)	(二〇一七)	(二〇一八)



「いま伝えたいこと 中村元先生
の最後のねがい」 発刊によせて

今こそ 生きる仏教を

今回西来寺報に冊子を同封させて頂きました。著者の前田專學（まえだせんがく）先生は5年前に西来寺報恩講で『ゴータマ・ブツダのころ』を講演を下された方です。ちょうどその年、インドの国民栄誉賞「パドマ・シユリー勲章」を受賞なさいました。その前田先生が西来寺のため書いてくださった『書き下ろし』です。

冊子タイトルにある中村元（なかむらはじめ）先生という名前を聞いたことの無い方も多いと思います。中村先生は世界的な哲学者で功績は多岐にわたりますが、身近な例で説明しますと、今の元号「平成」を決めた委員のひとりでもいらつしやいます。中村先生の功績の中で仏教徒



として特に取り上げたいのが「お経の現代語訳」です。それまで漢文でまるで呪文（？）のように書かれていたお経を、インド古代語の原典から現代日本語へと訳したのです。例えば、「釈迦牟尼世尊」を「ブツダ」というように。大変わかりやすくなったと同時に、当時の仏教界から「重々しさが無くなる」と大変なバツシングを受けたとも聞いています。

ではわかりやすくなったお経が何を伝えているのか、ブツダは何が言いたかったのかというと、それは「いかに生きればいいのか」何が一番大切なのか」ということです。

例えば『法句経』の一説はこうなります。「学ぶことの少ない人は、牛のように老いる。かれの肉は増えるが、かれの智慧は増えない」「たとえ貨幣の雨を降らすとも、欲望の満足されることはない」これが本来のお経です。わかりやすいですよ。人の心も自分の心も見ることが出来ません。部屋の汚れは見えても、心の汚れは見えません。ましてどうすれば心がきれいになるかも分からない現代です。そんな今だからこそ、

中村先生が心に大きな羅針盤を示してくださっている。そして、それを前田先生が伝えようとしているのです。

当初、学生向けにと考えていたが、貴重な写真や、衣笠在住の田所画伯の挿画も提供いただきまして。この冊子が広く一般に読んで頂ければと願っています。

行ってみよう

毎月28日は同朋会

今日の教科書は『正信偈の教え』。

なんだかちよつと難しい本のようです。住職が少し読み進め、読み下しをおこないます。「ちよつと質問いいますか？」早速声があがりました。「梵天（ぼんてん）ってなんですか？」住職が本に書かれたことに添いながら、質問に解りやすく説明していきます。インドの神様の話では弁天さん、仏教の守り神の話では興福寺の阿修羅像、手塚治虫の漫画の話など、みんなにとつて身近なことを例にあげてのお話して下さいます。あちらこちらでひらめきの声や、とき

には笑い声も聞こえます。

西来寺の「同朋会」は、仏教のお話を通して日頃の生活のあれこれも解きほぐしてくれる、みんなと一緒に過ごすあたたかい集いです。どうぞ気軽にお越しください。お待ちしています。



1月の同朋会では、新年会も兼ねて、お弁当が出ました。坊守特製、和三盆の柔らかい甘みの「おしるこ」は大人気、その後で新年のビンゴゲーム大会も行いました。西来寺のホームページでは、そのときの写真がご覧頂けます。



春のお彼岸

3月18日（月）～24日（日）

本堂受付は21日（お中日）まで